

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200279		
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア大倉湯 (1階)		
所在地	札幌市東区北23条東5丁目5-21		
自己評価作成日	平成23年2月18日	評価結果市町村受理日	平成23年5月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「ひとりひとりの歴史と個性で輝く我が家」 大倉湯GHに関わる全ての人(入居者・入居者家族・地域住民・職員)のこれまで生きてきた歴史(時代背景・家庭・社会環境など)や個性(性格・障害・病気など)の集まりがあってこそ今のGHが輝いている。という理念を中心に職員一同、その人を知る・理解する。その人を理解し知ること、ひとりひとりのその人らしさを尊重し、ひとりひとりのその人らしい生活・望む生活の支援を行っている。
 ・終末期ケアの取り組みを行っております。グループホームとして医療行為が行えないため、グループホームで行える医療行為は限られておりますが、本人・家族から希望があった際には、医師や看護師と話し合いの場を設け、本人の望む・望むであろう最後に向かって出来る限りの支援をさせていただいております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0190200279&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年3月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市東区の住宅街に位置するホームは、デイサービスとも隣接し、高齢者が進む地域の中で、地域と共に高齢者を支えたいという思いを持って取り組みを行っています。利用者は隣接するデイサービスに遊びに出かけ、地域の高齢者と触れあったり、町内会行事に参加するなどしています。また地域からの要請を受け「子供110」として緊急時に子供を保護する活動にも協力しています。昨年9月にはホームの車両が導入され、今後ますます利用者の外出支援に力を入れていくことが検討されています。職員の資質向上にも取り組み、全国組織である本社が実施するテレビ研修や職員が希望する研修への参加、ミーティングでの職員の知識共有なども行っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひとりひとりの歴史と個性で輝く我が家」という理念をかかげ、入居者ひとりひとりの性格・生活暦を尊重している。また、理念を事務所・玄関に張り出し、いつでも閲覧可能になっている。	開設時に独自の理念を定めています。具体的な事例に沿って理念について話し合っています。開設より時間が経過したため、現在の利用者や職員の思いを込めた理念の作成を予定しています。	今後、ホームの理念を再構築する取り組みが予定されています。その際には地域密着型サービスとしての社会的役割なども視野にいれながら、地域や利用者のニーズを検討し、目指すホーム像を表現する理念を作成することを期待します。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の夏祭りには毎年参加している。また、地域の中学生の職場体験・雪かきボランティアの受け入れを行っている。	ホームは「子供110番」などを標榜し、地域と一体となって子供を守る運動に参加するなど、地域との支えあいや相互の協力関係構築に努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、地域の方に認知症の理解などを都度行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、取り組み状況を説明し、意見をいただき、サービス向上に努めている。	平成22年度は5回の実施と年度末までに1回の会議予定があります。今後は利用者の状況を知って頂いたり、災害時の地域との連携強化に活用することになっています。	開催時期の決定が会議の直前になることもあるようなので、参加者が参加しやすい環境となるよう望みます。また、会議結果も家族に送付したり、職員と共有するなどの取り組みを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員の方は運営推進会議に参加していただいている。他、生活保護・市の介護保険課とは連携をとっているが、ほぼ交流はなし。	ホームの運営に必要な連絡や相談を行っています。包括支援センターや民生委員などが、運営推進会議に参加して頂いており、適宜アドバイスを受けています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠などは行っておらず、見守り・鈴をつけるなどで対応している。また、禁止の対象となる行為を理解している。	会議の際に身体拘束について職員が話し合う機会を設けています。利用者の安全のために一時的にベッド柵などを使用する場合は、職員が必要性について検討し、家族と相談しながら実施しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修などで、学ぶ機会がある。事業所内ではミーティングなどを通して意志の統一を計り、虐待行為の防止えおしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度について研修済みだが、全職員にはいたっていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に関しては、管理者が中心となり、家族に説明し、理解納得を計っている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見・要望を相談できるように相談窓口を設置している。相談窓口を設置していることを契約書に記載し、都度説明を行っている。	家族等から意見や要望を受けた場合は、職員が会議で話し合いを行い、どのようにするのかを家族に伝えています。	面会などの際に家族等から意見を受けることがありますが、ホーム側からの働きかけや場面作りが求められます。家族アンケートの実施や更なるホームからの様々な情報の開示など取り組みを期待します。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングを行い、その際に職員の意見を聞き、反映させている。また、朝の申し送りや適宜話し合いの場を設け、意見を反映させている。	職員からの研修受講希望など、費用面を含めて支援するようにしています。管理者は職員の就業規則について法人と話し合うなど、職員の意見を大切にしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準・労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時に、各職員と面談の場を設け、給与水準・労働時間などを話しあい、職場環境・条件の整備を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内に外部研修講座の予定を張り出し、受けた研修がある際には、すぐに受講可能な体制を整えてある。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が東区グループホーム連絡会議の副代表をしており、勉強会・各活動の報告を通じてサービスの質の向上に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	住み替えなどによるリスクを考慮し、入居者とコミュニケーションを積極的にとり信頼関係を作るとともに、困りごとや不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から、情報交換を行い、不安や要望を聞き入れ、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早期に本人や家族または、関係機関情報提供を受け、現状に応じたケアプランを作成し、現在必要とされている支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き・洗濯たたみ・レクリエーションなどを一緒に行う事により、ともに笑顔でゆったり落ち着いて過ごせるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族・知人などにはいつでも気軽に面会に来れるよう面会時間などは設定していない。また、面会に来られた家族が入居者の食事介助を手伝ってくださったりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場との関係が継続する為に、情報収集・家族の協力を得ながら、調整を行っている。また、遊びに来られた際には、不快感を与えないよう、居室で過ごしていただくなどの支援を行っている。	利用者からの希望については、職員が可能な限りその都度支援するほか、家族等とも協力しながら、入居前の好きな場所や知人などに連絡できるようにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のコミュニケーションが円滑に出来るよう、職員が間に入ったり、ひとりひとりの性格を把握し、気の合った入居者との交流を楽しめる環境・全員との和が持てる活動を提供できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても関係が途切れないように、メール・年賀状のやり取りなどを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活や会話の中から、本人の希望や願いを聞いており、本人本位のケアが出来るように努めている。また、本人が希望や願いの表出が困難な入居者には、家族の思いなどを考慮している。	入居時と要介護申請時にはアセスメントを行っています。日々のケアの中で職員が把握した利用者の希望などは、ミーティングや申し送りの中で伝達されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、生活暦や生活環境の情報収集を行っている。また、各関係者から情報収集をしたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録・水分表などを活用し、心身状態の把握に努めている。また、課題分析表を作成しその時々々の能力や課題を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施、約3ヶ月毎にカンファレンスを実施し、介護計画を作成している。また、状態に大きな変化があった際には都度行っている。	3ヵ月毎に計画を作成します。作成者がモニタリングを行い、職員が会議でその人らしさを大切にしたい介護計画を作成しています。	モニタリングに必要な利用者の意向など、日々の様子の記録が少なく、職員の記憶に頼っています。また、来訪が少ない家族への介護計画の説明が不十分です。郵送するだけでなく説明するなど、計画を共有する取り組みを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌・日々の記録・また毎日の申し送りやミーティングなどを使用し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに柔軟に対応できるよう日頃より職員は創意工夫を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニ・スーパーや公園・隣のデイサービスなどに遊びに行くなど、暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはかかりつけ医の説明を行い、家族の希望を聞き納得していただいたうえで決定している。	かかりつけ医との連携は看護師が行い、生活状況やバイタル記録などを医師と共有しています。また家族にも受診の結果を知らせています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の健康管理に関しては、健康管理表・日々の記録を活用し、看護職員・かかりつけ医に相談し、適切な看護がうけられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院からの情報提供をうけ、入居者の状態の把握に努めている。また退院後の体制を整え安心して戻れるよう配慮している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の際には、家族・職員・看護師で話し合い・ミーティングを行い、意思統一をはかり、今後の方針を決めている。	重度化と看取りに関する指針を定め、入居時に家族や利用者から同意を得ています。家族等からは意向を確認しており、職員がミーティング時に話し合うなどしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講座への参加や看護師より応急手当の方法初期対応の方法の指導をうけている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行い、避難通路の確保や誘導方法を身につけるように努めている。	平成22年度には夜間想定避難訓練を2回実施しています。避難訓練の家族見学など、様々な人に関わって頂くための取り組みが始まっています。	日常的な防火点検等を行い、避難経路の確保や防災に努めることも必要です。また、利用者の安全を守るためには、非常時に地域の方々の協力が不可欠です。地域との連携強化を期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの仕方・言葉、話し方・聞く態度に留意し、誇りやプライバシーを損ねないように支援している。	利用者の呼称などの希望を聞きながら、その人らしく、誇りを持って暮らせるよう取り組んでいます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話や様子から、願いや希望を聞くよう努めるとともに、自己決定できるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の日々の暮らしやペースを把握し、希望に沿って過ごせるよう配慮している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服、好みの服などを本人と相談しながら、着用していただいている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやモヤシのひげとりなど、入居者が、出来る部分は手伝っていただき、また、食器拭きなどもお願いしている。	当日、職員が利用者のリクエストを参考に食事を作っています。野菜や食材を多くするなどの工夫をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が毎日、メニューを考えており、多くの食材を使うなどバランスの取れた食事を提供できるよう支援している。また、入居者の状態などにあった物を提供するなどの工夫を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをし、口腔ケアを行っている。自分で行う事が困難な入居者は介助を行うなど、本人の力に応じた口腔ケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分量と排泄チェック表を記入し、その人の排泄パターンの把握に努め、残存機能を活かした介助方法を行っている。	同性介助を基本としていますが、利用者の了解を得て異性介助を行う場合もあります。排泄パターンを把握し、トイレでの自然な排泄ができるように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操を実施し、身体を動かすよう働きかけている。また、水分を多く摂ってもらうなどの工夫を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間は決めておらず、その日の体調や希望を聞き入浴してもらっている。	基本的に週2回実施しています。利用者の爽快感や満足感を大切にしています。時間や入浴順など利用者の希望に沿い、意向を尊重しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や様子を見ながら、休息の声掛けを行っている。また夜間はゆっくり眠れるよう環境整備を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬マニュアルを作成しており、誤薬の事故が無いように努めている。また、薬表を個人ファイルにはさめており、いつでも閲覧可能になっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	週に1回レクリエーションの時間を設け、上下のユニット合同で開催しており、楽しみごと、気分転換の支援を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場など天気の良い日には、散歩や買い物に出かけている。冬季期間は外出の機会が少ない。	22年秋にホームの車を導入しました。利用者の希望で仏花や菓子などを買いに出かけたり、デイサービスに遊びに行っています。花見など季節を感じる行事も行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者はお金を本人管理で持っており、ヤクルトや買い物の際には自分で支払いを行ってもらうなどの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりは自由で希望があれば積極的に支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は整理整頓・掃除を行っており、清潔を心がけている。又季節がわかるようカレンダーや飾りつけをしている。室温などの調整に気をつけ家庭的な雰囲気作りとプライベートの配慮を行っている。	全員が集う居間は、利用者が居心地良く過ごせるように家具の位置なども配慮しています。季節感を大切に、家庭的な飾りを用いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は居間・食堂など、入居者の好きな場所で過ごされるよう家具の配置を換える・入居者の座る位置を変更するなどの工夫を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から使い慣れた家具などを持ち込んでいただき、また、入居後も入居者の状態などの応じて、家具の配置を変更したりと、居心地よく過ごせるような工夫を行っている。	利用者の身体状況に合わせて、居室の家具の配置などに危険がないか、職員が気配りをしています。利用者が気に入ったものを持ちこんでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレがわかるように表示をしたり、安全に歩行ができるように障害物や家具の配置に配慮している。		